

「たからばこ」

～第2層生活支援コーディネーター向け第2号～

地域の支え合い情報紙「たからばこ」は、地域で頑張っている第2層生活支援コーディネーターの皆さん向け、第1層協議体（関係者ネットワーク会議）の内容や各地区での活動の様子などを中心に紹介し、地域福祉活動の推進に役立てていただくために、年数回程度の発行を予定しております。

今回は、10月27日に開催された令和4年度第2回関係者ネットワーク会議の内容と参加者の発言からピックアップしたものをお伝えします。

会議の様子を紹介します



今回の第2回関係者ネットワーク会議は、第1回目で話し合っていた『広く市民に地域福祉活動の内容や必要性を知っていただくための啓蒙・啓発』から継続して『具体的にどういう啓蒙・啓発をすればよいか』という内容でざっくばらんに自由な意見を出し合いました。



第1回目に続いて2回目の会議でも「地域活動、ボランティア等にどうして参加してもらえないのか？」と考えてみました。

ボランティアって難しい・大変なこと、専門的なことなどと思っているのかもしれない...



第1回目ネットワーク会議



第2回ネットワーク会議

年齢層や地域によっては、地域行事や互助などの繋がりや経験が無いのかもしれない...

互助・地域の助け合いの必要性を感じていない世代が多いのかも...

地域の中で、役員をしていた頃に何か言われたりし、辛い経験をしたのかも...



第2回関係者ネットワーク会議委員の皆さんです!



長岡市上川西コミュニティセンター	
長岡市福戸コミュニティセンター	
NPO法人中越防災フロンティア	
長岡市地域包括支援センターなかじま・おもてまち	
長岡市社会福祉協議会	
長岡市長寿はつらつ課	
長岡市社会福祉協議会	

支え合いの必要性・重要性を広く市民に伝える具体的なアイデア！

どのような人たち

《 背景 》

コミセン主事さんや社協、福祉関係者（地域・専門職）、行政などは、仕事や役割を通じて、地域のつながりの大切さは理解でき、様々な事例を通じて体験もしている。しかし、そういった経験のなかった頃は、なかなか関心を持とうとしなかったり、知ろうとしなかったと思う。

また、子育て世代の時は、周りに目を向けるなどのゆとりもなく、夢中で家事育児に仕事にと頑張っていて、子ども会や学校等の役員なども義務感で参加せざるを得なかった。子どもも成人し、子どもを通じた「つながり」から解放されたが、はたと気づくと「職場以外の人とのつながり」が殆どないということに気づく人が多いのではないかな。さらに、親も次第に高齢となり、新型コロナウイルスの影響もあり、あまり親の所へ出向くことも減ってきているのではないかな。支援が必要になりはじめる親の身近な相談者や協力者の中に、近所の方々が含まれ出してくる年代になるのではないかな。

若年層対象



定年後の
余裕がある方対象



40後半～50歳代対象



テーマと方法は？

例①



若い世代（学生・子育て世代）に

○SNSを利用して具体的なお手伝い募集

- ・スマホ教室のお手伝い
- ・炊き出しの配膳お手伝い
- ・老人会の旅行のチラシづくりのお手伝い

○町内公式ラインで町内情報の共有

ライン(LINE)について、
別紙にまとめてみました！

例②



ボランティアという言葉が重い・かたい印象？

- 名称を変える？
- 体験会を計画する
- 介護・生活支援だけではない具体例を示す
- 有償について考える
- 介護予防、機能低下を防ぐきっかけにもなることを伝える

例③



子育てが落ちつき、親の心配をするような世代に

- 子どもを通じたつながりの機会も減り、仕事を通じたつながりしかないのかもしれない
- 親の生活や将来に心配が出るような世代
- 親しみやすいネーミングをつけてサロン（同世代）を計画



発行： 長岡市 長寿はつらつ課 令和5年1月

制作： 長岡市社会福祉協議会 地域福祉課 生活支援コーディネーター 松浦